

令和5年度 助産師資質向上・確保対策に関する実態調査結果（助産所）

I 概要

- 1 調査目的：県内の助産所における助産師の活動状況の実態把握、保健指導等の実施状況を把握し事業や施策内容に反映する。
- 2 調査対象：令和6年3月29日時点で一般社団法人兵庫県助産師会に所属し、助産所の開設届を提出している121助産所
- 3 調査時期：令和6年3月28日～令和6年4月19日
- 4 調査方法：一般社団法人兵庫県助産師会より対象施設にメールで調査依頼し、兵庫県電子申請共通運営システムで回答集計
- 5 回答数：38助産所（回収率31.4%）

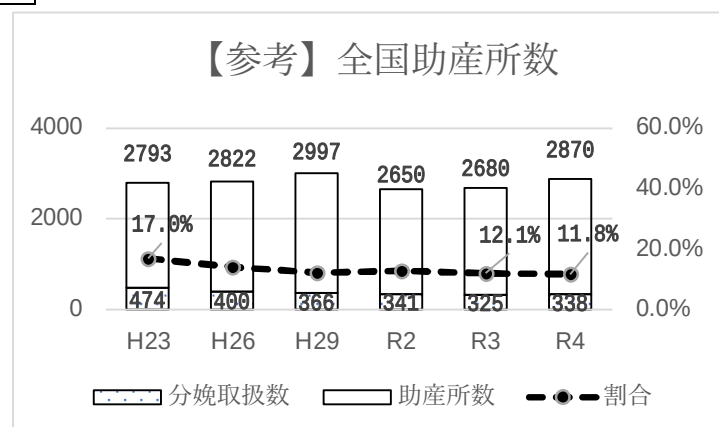
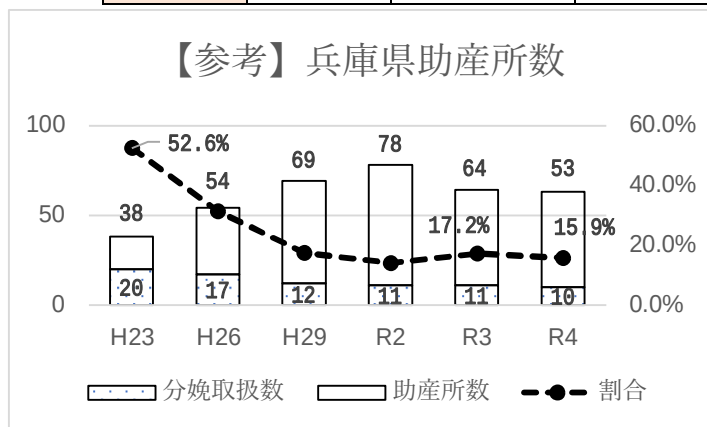
II 結果

1. 基本情報

（1）分娩の取扱について

兵庫県の助産所数は令和2年に最大となり令和4年度までは減少傾向であったが、令和5年度は助産師会に登録している助産所数が121件と急増。
全国の助産所数は平成23年から横ばい、分娩取扱施設の割合はわずかに減少傾向。

	助産所数	分娩取扱有	分娩件数
R5	38	4	13



※【参考】は行政衛生報告例より

（2）助産師数について

助産所勤務助産師数は行政衛生報告例上、令和2年までは横ばいであったが、R4年に増加。
本調査では38助産所で72名の助産師が勤務。

	常勤	非常勤	合計
R5	40	32	72

【参考】	H22	H24	H26	H28	H30	R2	R4
助産師数	67	58	62	67	67	67	89

※行政衛生報告例より

2. 助産師の確保・定着状況について

(1) 助産師の確保状況について

分娩取扱なしの 38 助産所中 8 助産所、分娩取扱ありの 4 助産所中 1 助産所が助産師が不足。

	確保できている	不足している	不足人数
R5	29	9	15.5

(2) 助産師の不足状況・要因等

- ① 宿泊利用者がすくなく、非常勤の助産師が他のアルバイトに従事しているため、都合がつかない事がある。
 - ② 雇用するだけの収入がない
 - ③ 雇用する助産師の教育に充てられる時間がない
 - ④ 助産師自身が子育て世代で忙しい
 - ⑤ 産後ケアを毎日こなす人員不足
 - ⑥ 宿泊型の産後ケアをまわす人員不足
 - ⑦ 地域活動経験の少ない助産師が多い
- 等

(3) アドバンス助産師について

取得者・新規取得者は分娩取扱なし施設に 14 名、分娩取扱施設に 1 名に在席。

	取得者	新規取得者	未更新者
R5	12	3	10

3. 助産師の活用促進について

(1) 人材育成の取り組みについて（複数回答可）

項目	回答数
産後ケア実務助産師研修への参加	29
助産に関する研修への参加	24
ウィズヘルスケアに関する研修への参加	16
助産領域以外の看護の知識・技術に関する研修への参加	15
助産師クリニカルラダーを活用した人材育成	3
その他	2

医療リスクマネージャー、メンタルヘルスマネージャー
大学助産学専攻科の実習引率

(2) 産後ケアの実施について

① 実施状況

全体数	実施している	実施していない
38	34	4

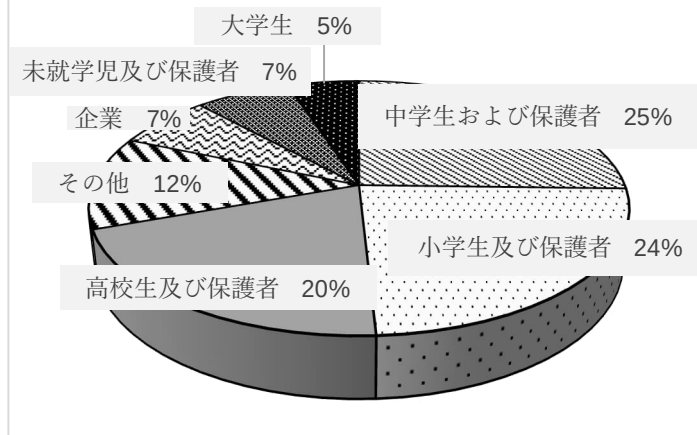
② 実施事業内容

宿泊型	デイサービス型	アウトリーチ型
4	17	26

③ 出前事業講師派遣について

実施している	実施していない
21	17

助産所の出前授業対象者



授業内容

- ・性教育・思春期保健
- ・プレコンセプションケア
- ・産褥婦対応の仕方
- ・妊娠、出産について
- ・助産師になるためや仕事内容の講義
- ・母乳育児
- ・子育て
- ・産婦骨盤ケア

等

4. 情報交換会への参加意向

参加意向あり	参加意向なし	どちらともいえない
17	1	20

5. 助産師の資質向上・活躍推進に関する自由記載欄

38 助産所のうち 10 助産所が記載した意見内容を「資質向上について」、「活躍推進について」、「地域連携について」に分類し、表のとおりまとめた。

カテゴリー	意見詳細
資質向上について	地域で活動する助産師の地位向上を目指す必要がある
	資質向上は各助産師が自ずとしている。
	助産師が職業アピールが必要な部分があると思う
	経営・広報教育を受ける機会を必要としている。
活躍推進について	専門職としての報償費の確保が必要
	助産所を活用し周産期の切れ目ない関わりを充実させる。
	助産所助産師の資質向上・活躍推進は大変難しく悩ましいのが現状
	助産師の認知がされるような取り組みがほしい。
	市民フォーラムなどで助産師が話す場などがほしい
	ボランティアで地域貢献しているが限界を感じている
	助産師業務に対する保険適応が必要
	臨床業務や地域活動との兼任になり調整が難しいことがある
地域連携について	地域での活動は助産師の役割を実感でき意欲的に取り組んでいる
	子育て支援や産後ケア認知の輪を広げるには子供支援などの NPO や地域と連携していくことが必要
	他施設の産後ケアの状況を知りたい
	切れ目のない支援には、助産師も臨床と地域、助産院と行政といった垣根を、低くする努力が必要。
	産後ケア利用希望者の出産された施設との情報交換をしたい。